

# 付着生物ラーバ情報

## 一部海域でキヌマトイガイラーバが増加しています

### 1 ラーバ等の出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

#### (1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは奥内沖で2月7日に0.8個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で1月29日に1.1個体/m<sup>3</sup>、川内沖で2月5日に0.8個体/m<sup>3</sup>見られました (表1、図2)。

#### (2) ミネフジツボ (通称：シロガキ)

ラーバは久栗坂沖で2月5日に0.6個体/m<sup>3</sup>見られました (表1)。

#### (3) キヌマトイガイ (通称：コメガキ)

ラーバは奥内沖で2月7日に3.3個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で1月29日に22.2個体/m<sup>3</sup>、2月5日に76.1個体/m<sup>3</sup>、野辺地沖で2月7日に333.6個体/m<sup>3</sup>、川内沖で2月5日に7.8個体/m<sup>3</sup>見られました (表1、図3)。

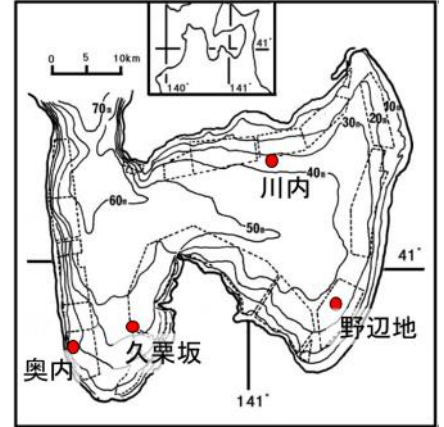


図1 ラーバ調査地点

### 2 今後の見込み

現在、陸奥湾内の中層の水温は西湾で8℃前後、東湾で5℃前後です。

#### (1) ユウレイボヤ

ラーバ累積出現数が10個体以下の場合は付着が少ないことが分かっています。奥内沖の累積ラーバ数が15.9個体/m<sup>3</sup>と10個体以上になっており、分散済みのパールネットにユウレイボヤの付着が見られています。**大量付着により、今春の出荷効率が低下する可能性があります。**また、ユウレイボヤは深いところで多く付着することが分かっているため、施設を沈めすぎないようにしましょう。

#### (2) ミネフジツボ

ラーバが一部海域で出現していますが、出現数が少なく、例年1月の出現ピークを過ぎているので、**今後の付着は少ないもの**と思われます。

#### (3) キヌマトイガイ

ラーバの出現数が増加している海域があることから、今後、**籠や耳吊り、マボヤの採苗器への付着が進むもの**と思われます。

表1 ラーバ等の出現状況

単位：個体/m<sup>3</sup>

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ミネフジツボ	ムラサキガイ	キヌマトイガイ
奥内沖	R6.2.7	0.8	0.0	0.0	27.5	3.3
久栗坂沖	R6.1.29 R6.2.5	1.1 0.0	0.0 0.0	0.0 0.6	50.6 150.0	22.2 76.1
野辺地沖	R6.2.7	0.0	0.0	0.0	174.2	333.6
川内沖	R6.2.5	0.8	0.0	0.0	26.6	7.8

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

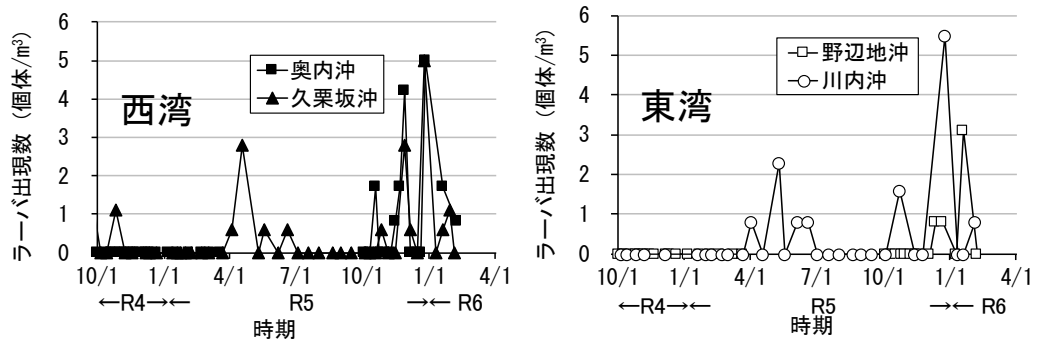


図2 ユウレイボヤ出現数の推移 (令和4年10月～令和6年2月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 25個体/m<sup>3</sup>、東湾 10個体/m<sup>3</sup>

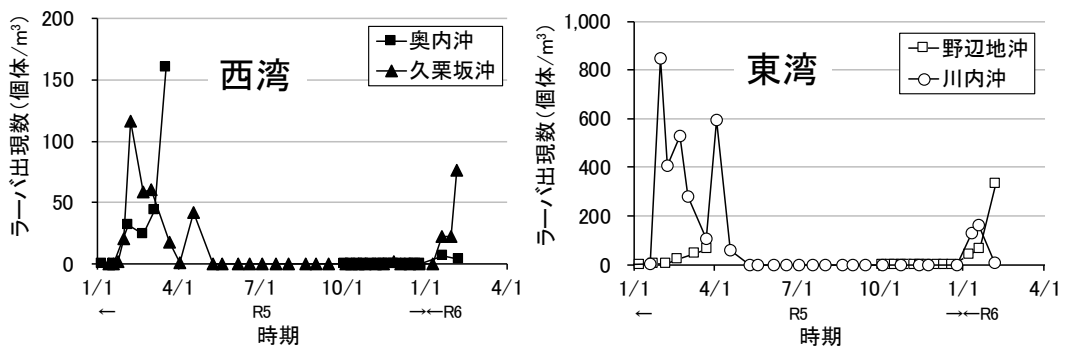


図3 キヌマトイガイ出現数の推移 (令和5年1月～令和6年2月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 915個体/m<sup>3</sup>、東湾 4,483個体/m<sup>3</sup>

